

御茶の水女子大学附属高等学校アマガンボランティア部

# 気仙沼・南三陸被災地研修記

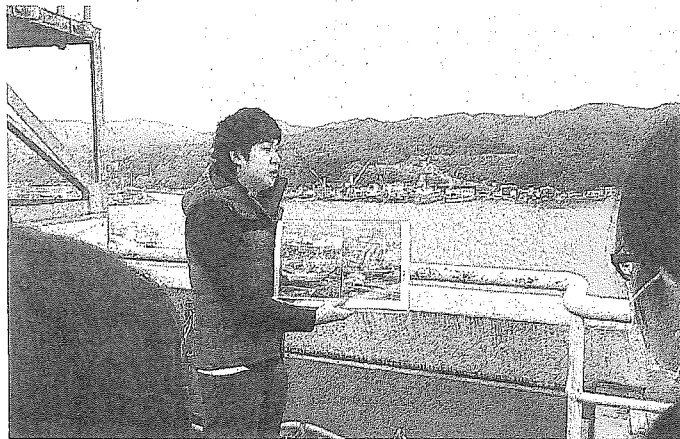
①

日程 2015年12月12日～13日

## 「また訪れたい」

2年 松本 咲

私自身は2度目の被災地研修だった。昨年は目の前に広がる光景、みるものすべてに言葉を失い、ただただ立ちすくむことしかできなかった。震災後、研修を含め、自分なりにいくつもの資料に何度も目を通し、被災地を知ったつもりでいた。だが、再び被災地を訪れると、息をのむ瞬間がまた何度もあった。美術館で放映されていた映像がその一つである。今までのどんな資料よりも緊迫感があり、自分はまた被災地のことを知らない



プラザホテルの屋上で震災時の話を聞く

いる人や被災地を自分の目で見たことがない同級生や後輩たちとできる限り被災地を伝えていきたい。また、被災地を伝えるときには必ず用いらせていただい

いる言葉がある。今年も宿泊させていただいた唐桑町にある民宿の女将さんがおっしゃっていた「1歩歩いて2歩さがる」「地球は丸いからいつかはもどるもどるんだ」という言葉である。部員とは共に伝えることを大切に活動していきたいと思う。最後には同級生の部員と必ずまた来ようとする約束をした。

## 「津波の記憶と未来」

2年 橋本 ひとみ

リアスアーク美術館で見たことは、私の想像を遥かに超えるものでした。一番心に残ったのは、ヘドロが流れ込み地元の人々が愛してきた土地が一瞬にして失われたというパネルでした。しかしそのヘドロのものは、長年人間が繰り返してきた環境汚染によるもので自然からの仕返しであるという解説文を見たときは、深く考えさせられました。その他にも、津波を経験していない

機が被災物として展示されていたのを見たときに、津波の威力と恐ろしさを感じ、これを実際に見ることができた自分に津波というのは恐ろしい、人間で防げる範囲を超越した自然現象なんだと、教えられているような気がしました。日本は地震国である故、津波が来る危険と隣り合わせです。この震災で起きたような被害を今後はどう防いでいくのか、未来につなげるのか、他人事と思わずに考える必要があると強く思いました。

## 「被災地研修に参加したからこそ、感じたこと」

1年 橋本 薫

先日、高校のボランティア部の活動の一環として、気仙沼を訪れました。今ま

- 【スケジュール】
- 1日目
    - ・南三陸町仮設商店街、モアイ像、旧防災庁舎等見学
    - ・気仙沼向洋高校～地福寺墓地等海岸線(日没前)
    - ・唐桑半島へ～唐桑町宿舎つなかん泊
  - 2日目
    - ・気仙沼市教育委員会前(車内にて) 宮城教育大学教育復興支援センター気仙沼事務所 茂木 ゆみ子さん講話
    - ・気仙沼市青少年育成センター海原航太さん合流の上案内開始
    - ・リアスアーク美術館見学、プラザホテル屋上より展望
    - ・昼食(気仙沼「海の市」)
    - ・シャークミュージアム見学
    - ・気仙沼魚市場・漁港 見学

は初めてでした。プラザホテルの屋上から海を見下ろしながら、当時どんなことが起こったのか被災者の方にお話を伺いました。しかし、今までテレビで見ていた津波などの光景が、今自分が見ている海や町で実際に起きたことであるということが、信じられませんでした。現地では、海の幸を食べ、宿の方に明るくもてなしていただきましたが、その裏に私には想像できない体験が隠されているのだと感じました。3月で、東日本大震災から5年が経ちます。私たちに本当にできることは少ないかもしれませんが、部活動の中でその答えを探したいと思います。そしてまた機会があったら、気仙沼に行き、その時には、私たちがなりたい姿を見つめたいです。